

景観計画の運用について

1、景観計画の沿革

○景観計画とは

景観法第8条に規定する「現にある良好な景観を保全し、また地域の特性にふさわしい景観を形成する必要がある地区等について、良好な景観形成に関する方針や行為の制限等を定める計画」として策定するものであります。

○景観計画策定の経緯

現在千曲市では長野県の策定した景観区域として一定規模以上の建物の新築や増改築等の行為を行う場合は県への届出が必要となっていますが、今後は、市町村毎に景観行政団体(県の同意)として独自に対応することが可能となりました。景観行政団体は、一定規模以上の建物の新築や増改築等の際に届出を求め、色彩や形状、配置などについて勧告命令等の指導を行うことができます。市内には、名勝に指定された姨捨の棚田をはじめ森・倉科のあんずの里、稲荷山の蔵の街、戸倉上山田温泉の夜景など良好な景観がいくつもあります。現にある良好な景観を保全し、千曲市にふさわしい良好な景観の形成を保全してゆくためには千曲市が景観行政団体になる必要があり、そのために千曲市の景観計画を策定する必要があることから平成21年8月に千曲市景観計画を策定いたしました。

その後、約10年が経過するなか、「景観を意識したまちづくり」や「太陽光発電施設の増加による景観への影響を最小限に抑える」などの千曲市独自の景観形成に向け、平成30年度に見直しを実施することを決め、平成31年3月に千曲市景観計画の改定を完了しました。



○千曲市景観計画の性格と構成

景観計画には、「景観計画の区域(景観法第8条第2項第1号)」、「良好な景観の形成に関する方針(景観法第8条第3項)」「行為の制限に関する事項(景観法第8条第2項第2号)」、「その他の景観形成に関する方針(景観法第8条第2項第3号)」などが示されております。

景観計画では一定の方針や規制について示されておりますが、社会情勢の変化などにより、景観形成重点地区の指定や行為の制限に関する事項についての内容の変更、個別事項の決定等について随時行うこととしております。

○行為の制限に関する事項

- ・届出対象行為:景観形成の基本理念を踏まえて設定された目標「未来に引き継ぐふるさとの景観まちづくり」を進めるため、景観計画区域全域を対象に、一定規模以上の開発行為を届出対象として設定しております。なお、姨捨地区については景観形成重点地区として規制内容は他の地域と比べて厳しい条件となっております。
- ・景観形成基準:景観形成基準の項目は、長野県景観育成基準と整合を図るため、また千曲市の景観形成の事本理念に即し広がりのある豊かな自然や歴史・文化が育んだふるさとの景観づくりを推進するため、現時点で最低限必要となる内容を、景観法の範囲内で定めています。ただし、社会情勢の変化や市民・事業者による景観への理解の醸成に応じて、随時変更を検討しています。

景観計画の運用について

2、運用について

様々な相談案件がある中、取り扱いの基準が明確になっていない部分について、運用の基準を設けることで、適正な景観育成に取り組んでいきたいと考えております。
今回はその中でも、多くの相談を受ける2点について運用の指針を作成していきたい。

① アクセントカラーの取り扱いについて

◆景観計画の記載(抜粋)

種類	都市地域	沿道地域	田園地域	山里・高原地域
色彩等	■低彩度の色彩（注）を基調とし、周辺の建築物・工作物と調和した色調とすること。	■低彩度の色彩（注）かつ、できるだけ落ちついた色彩を基調とし、周辺の農地や、建築物・工作物に調和した色調とすること。	■低彩度の色彩（注）かつ、できるだけ落ちついた色彩を基調とし、周辺の農地や集落の景観に調和した色調とすること。	■低彩度の色彩（注）かつ、できるだけ落ちついた色彩を基調とし、周辺の自然景観に調和した色調とすること。
	■多色使い、アクセント色の使用等に際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮すること。	■使用する色数を少なくするよう努めること。		

◆今までの運用基準

○都市地域

・アクセントカラーについては、低彩度の色彩の範囲内での使用を原則として、最小限の面積とすること。なお、範囲を超える場合には景観審議会の意見を聞くこととする。
※千曲市として景観審議会に事例なし

○都市地域以外の地域

・色彩については、低彩度の範囲内として、使用する色数を最小限とする。なお、低彩度範囲を超える場合には、景観審議会の意見を聞くこととする。
※第12回景観審議会のあんずの里保育園の外壁等の色彩について審議いただきました。

◆新たな運用基準 ※赤字部分が運用基準として追加したい内容となります。

○都市地域

・アクセントカラーについては、**低彩度に近づけることを基本とするが、基調色との調和や企業のイメージカラー等として使用する場合は彩度15を上限とする。**
また、使用できる量は壁面の10分の1未満とする。（ドアや窓も壁面の面積に含むものとする。）

○都市地域以外の地域

・アクセントカラー等の使用については、**原則低彩度とするが、都市地域同様に基調色との調和や企業のイメージカラー等として使用する場合は彩度15を上限とする。**
また、都市地域同様、使用できる量は壁面の10分の1未満とする。（ドアや窓も壁面の面積に含むものとする。）

② 太陽光発電施設等の設置に関する事項

◆景観計画の記載(抜粋)

○配置

・地面に設置する場合は、植栽や格子・ルーバー等の目隠し修景により、望見できないよう努めること。(図1参照)

○規模

・建築物の屋根に設置する場合は、設置面周囲のパラペット以上の高さ以下とするよう努めること。
・やむを得ず、パラペットの高さを超える場合は、ルーバー等の目隠し修景等により県陸物との一体性の確保に配慮すること。(図2参照)

○意匠・形態

・屋根材として勾配屋根に使用する場合は、一体的に見える形態とするよう努めること。(図3参照)
・建築物の勾配屋根に設置する場合は、屋根と一体的に見える形態とするよう努めること。(図3参照)

○色彩等

・屋根材として使用する場合は、パネルの色彩を黒または濃紺若しくは低彩度・低明度の目立たないものとするよう努めること。

◆今までの運用基準

○配置

・原則、植栽や目隠しフェンス等の設置により目隠しすること。
・植栽や目隠しフェンス等の高さは図面正面より見えないようにすること。

○規模

・パラペットの高さ以下とすること。
・パラペットの高さを超える場合はルーバー等の設置をすること

○意匠・形態

屋根材として勾配屋根に使用する場合は、一体的に見える形態とするよう努めること。また、屋根の一部分に設置する場合は、設置箇所以外の部分の色彩を太陽光発電施設と同系色として、一体的に見えるように努めること。
・建築物の勾配屋根に設置する場合は、屋根と一体的に見える形態とするよう努めること。また、屋根の一部分に設置する場合は、設置箇所以外の部分の色彩を太陽光発電施設と同系色として、一体的に見えるように努めること。

○色彩等

・屋根材として使用する場合は、パネルの色彩を黒または濃紺若しくは低彩度・低明度の目立たないものとするよう努めること。

◆新たな運用基準 ※赤字部分が運用基準として追加したい内容となります。

○配置

・原則、植栽や目隠しフェンス等の設置により目隠しすること。**その場合の植栽や目隠しフェンス等の高さは、1.8mを基準として、パネルの設置高さに応じて協議するものとする。**

○規模

・パラペットの高さ以下とすること。パラペットの高さを超える場合はルーバー等の設置をすること。**なお、勾配屋根の勾配に沿わせて設置する場合やパラペット・ルーバーの設置により、圧迫感を与えるような大規模な建築物はこの限りではない。**

○意匠・形態

・屋根材として勾配屋根に使用する場合は、**原則**、一体的に見える形態とするよう努めること。また、屋根の一部に設置する場合は、**原則**、設置箇所以外の部分の色彩を太陽光発電施設と同系色として、一体的に見えるように努めること。
・建築物の勾配屋根に設置する場合は、**原則**、屋根と一体的に見える形態とするよう努めること。また、屋根の一部に設置する場合は、**原則**、設置箇所以外の部分の色彩を太陽光発電施設と同系色として、一体的に見えるように努めること。
・周辺の道路等から視認ができない、もしくは、視認しにくい状態である場合は、設置箇所以外の部分の色彩については、周辺の建築物等との調和を図りながら低彩度の範囲であれば、同系色でなくてもよい。

○色彩等

・屋根材として使用する場合は、パネルの色彩を黒または濃紺若しくは低彩度・低明度の目立たないものとするよう努めること。

図1

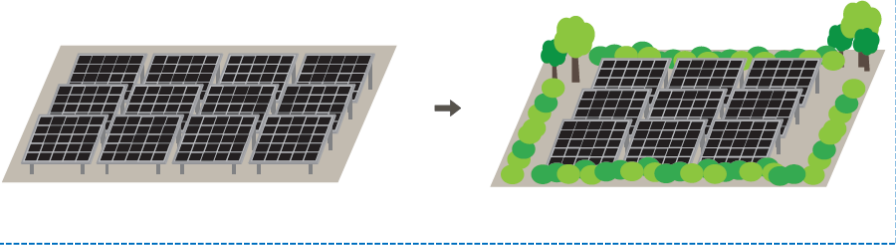


図2

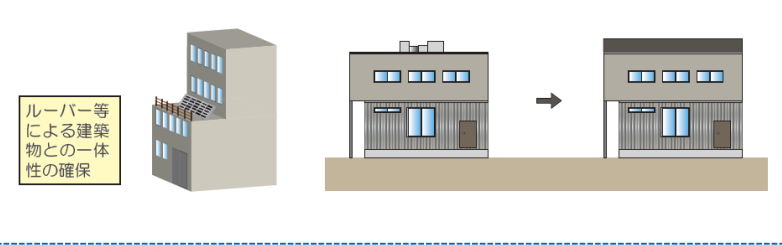


図3

